

本は友達 「私と本」

～自分と本との関わりを考えよう～

小学校6年 国語
本は友達「私と本」
資料の活用・読書指導

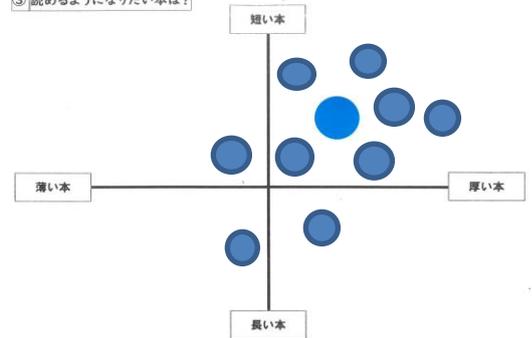
ねらい

- どんな本を読んできたか、どのくらい本を読んでいるかなどをふり返り、自分が本とどのように関わっているかを考える。
- 本との関わり方を交流することで、多様な見方や考え方にふれ、自分に取り入れようとする。

学習展開

- ① 自分の読書の実態を知るグループワークをすることを伝える。
- ② 「読んでいるのはどんな本？」「自分が読書にかける時間は？」「読みたい本はどんな本？」のテーマに、長い本・短い本、厚い本・薄い本の座標軸のワークシートを用意する。
- ③ テーマごとに色違いの丸シールを使って、自分の位置を貼っていく。貼っていくシートは重ねられるように透明シートにする。
- ④ 「読書を楽しむための工夫」について、グループごとにテーマを選んで自分の体験や考えを付箋に書いて貼り、意見交換する。

③ 読めるようになりたい本は？



読書を楽しむコツワークショップ

① 読書に現在地を知る。

- ② 読書を楽しむために、グループ別テーマで話して意見を付せんし書いてはる。
- どんなとき、本をよみたくなるか。
 - どこで読むか
 - 読むと自分にどんな変化が起きるか
 - どんな本が好きか。
 - これから読みたい本は、どんな本か。
 - 本の中のリンク
 - 感覚が近い人
 - 本との先約
 - 好きな読み方
 - 本がきっかけ
 - とっておきの場所

「みなみっこ6-0の 私と本」
と題してリーフレットにする。
読んでいる人のイラストを描く。

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 担任は、「私と本」での学習の進め方の見通しを持たせ、テーマ選びや6年間の読書のふり返りの助言や支援をする。
- 司書教諭は、「読書を楽しむための工夫」について担任と打ち合わせ、複数のテーマを考える。ワークシート等の準備物を整え、ワークショップを進行する。
- 学校司書は、テーマ選びを考えて本を揃え、学年・学級にケースで貸し出す。

★指導のポイント

- ◆ 「読書を楽しむための工夫」は、児童にとって体験や考えをイメージしやすいものを考える配慮が必要である。
- ◆ シートにシールを貼り終えた後やテーマについて意見交換をした後は、学級・学年でポスターセッションなどして共有化することが望ましい。

資料

「五感のちからでバリアをこえる」(大日本図書)「義足でかがやく」(講談社)「見えなくてもだいじょうぶ？」(あかね書房)「アハメドくんの命のリレー」(集英社)「ヒロシマ8月6日、少年の見た空」(学研プラス)「森へ」(福音館書店)等